

Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency

# CASBEE札幌



## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE\_Sapporo2014v1.2 | 使用評価ソフト: CASBEE札幌2014 (ver.1.3)

| 1-1 建物概要 |                       | 1-2 外観 |           |
|----------|-----------------------|--------|-----------|
| 建物名称     | 中央中学校                 | 階数     | 地上5F      |
| 建設地      | 札幌市中央区北4条東3丁目1-1の内    | 構造     | RC造       |
| 用途地域     | 商業地域、準防火地域            | 平均居住人員 | 700人      |
| 気候区分     | 1地域                   | 年間使用時間 | 3,000時間/年 |
| 建物用途     | 学校                    | 評価の段階  | 実施設計段階評価  |
| 竣工年      | 2017年7月 予定            | 評価の実施日 | 2016年6月1日 |
| 敷地面積     | 11,966 m <sup>2</sup> | 作成者    | 長島綾子      |
| 建築面積     | 3,626 m <sup>2</sup>  | 確認日    | 2016年6月3日 |
| 延床面積     | 9,352 m <sup>2</sup>  | 確認者    | 加藤誠       |



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.9**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (92 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み 74% (46 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

③上記+②以外の 71%

④上記+ 71%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.4**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.6

**LR のスコア = 3.7**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.3

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

| 3 設計上の配慮事項   |  |  |
|--|--|--|
| <b>総合</b><br>・校舎・屋内運動場を一体的につくり、狭隘敷地を活かしたコンパクトな配置計画とします。<br>・都心部に建つ校舎として、敷地外への影の影響や周辺建物から受ける影響に十分配慮した立面構成とします。<br>・5層の階数を活かしながら、地域に開かれた1,2階のパブリックゾーンと3階以上の各学年毎のプライベートゾーンを明確にした構成とします。 |  | <b>A 省エネルギー</b><br>・自然換気の経路を確保し、階段室塔屋を利用した建物全体のドラフト換気を試みます。<br>・自然光を活用し照明エネルギー低減を図ります。普通教室は廊下越しの二面採光を確保することで、照明エネルギーの低減を図ります。<br>・太陽光パネルを設置し電力量の削減を図ります。照明器具は全てLEDを採用し、事務室系執務室や教室では明るさセンサーを併用することにより無駄な照明出力を抑えることで照明電力の削減に配慮します。 |
| <b>B 省資源等</b><br>・外断熱採用により躯体を保護し長寿命化を図ります。<br>・可変可能な乾式壁を多用し、将来的な施設改修に対応する施設とします。   | <b>C 緑化</b><br>・既存樹木の一部保存と植樹により緑豊かな施設とします。 | <b>D 雪処理</b><br>・除雪に耐える外装材としてコンクリートを1階外壁の腰壁に採用します。<br>・十分な堆雪スペースをグラウンドに確保します。<br>・雪庇による落雪に対する安全確保は、南側の難壇形状により段階的に処理を行います。歩行者が通る場所には庇を設けることで安全な経路を確保します。  |

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される